

埼玉就労支援 事業所だより

008号 2014年12月

春日部のカンダファームに… 沖縄県からの視察団、来訪!

去る12月17日(水)、沖縄市にある沖縄県中部福祉保健所(県中部の町村住民が対象の、福祉事務所と保健所とを併せた施設)の就労支援員のおふたりが、埼玉県のアスポーツ事業を視察に来ました。

アスポーツ就労に埼玉県社会福祉課から視察対応の要請があったのが、約1ヶ月前。就労体験が実施されている現場を見てもらえるよう、川口・越谷の両センターと連絡を取り合いながら準備を進めてきました。

寒なか、カンダファームへ

お天気にも恵まれたものの、数日前から冷え込みが厳しくなっており、寒さのなかの視察となりました。沖縄からの視察団には、特に寒さがこたえたことでしょう。

訪れたのは、春日部市の兼業米農家・カンダファーム。

直売所の前で記念撮影。



米だけでなく、ウコンやニンニクの栽培・加工・直売で有名な農場です。近隣の学校(小中高)の農業体験受け入れや、障害者授産施設との連携にも積極的に取り組んでおり、アスポーツ事業にも深くご理解くださった上で協力事業所になって頂いています。

新制度施行を前に

視察のおふたり、大城さんと平安座(へんざ)さんは、福祉保健所の生活保護班で就労支援を担当している方です。視察の目的は、来春の生活困窮者自立支援法施行を前にして「他県でどのような支援が行なわれているか」の調査でした。

この日が就労体験の最終日だった支援対象者のAさんは、単身世帯で暮らす50代の男性。

前の仕事を辞めてから5年以上引きこもりの生活が続いていましたが、「働きたい」という意欲がない訳では決してなく、再就職への一歩めを踏み出す後押しと



山積みされた秋ウコンを手際よく処理する、体験参加者のAさん。この日が最終日だった。

きっかけを必要としている方でした。

冬でもポカポカのビニールハウスのなかで、時折りパートのおばあさんと会話を交わしながらの軽作業は、いまのAさんに最適な“助走”の機会になっている、と思いました。同ファームの神田夫妻も「あの人なら、どこで働いても大丈夫。仕事を見つけてきてやりたいぐらい」と、Aさんの人柄と作業に取り組む姿勢に太鼓判を押します。川口センターの佐久間さんによると、この体験の修了後はハローワークなどでの具体的な職探しに移行するとのこと。遠方から来たおふたりに視察して頂くには、これ以上ない支援の現場だったと思います。

帰りがけには、佐久間さんや越谷センターの山崎さんもちょくちょく購入しているという粉末ウコンと黒ニンニクをお土産に買った大城さんと平安座さん。気をつけて帰ってくださいね!